

# こどもの城 ニュース

KODOMO NO SIRO NEWS

2008・11・1 NO. 199 発行/(こどもの城)広報部 ☎03-3797-5674  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1  
http://www.kodomo-shiro.jp

ブロックのへいに、ぴったりとはりついたオートバイ。ドライビングスーツに身をこめたライダーのかわりに、たくさんの植木鉢をのせている。  
まんべんなく光があたり、影らしいものはほとんどない。すみからすみまで、はっきり映しだされている。立体感にとぼしく、ぼんやりとした向こうの家だけが、遠くにあることを教えてくれる。オートバイとブロックべいは、同じ平面の上にあるようだ。  
風をきって走っていたころのおもかげはないが、こちよい居場所を見つけたようだ。  
(写真:中根静男/文:たかべ としき)



## 【こどもの城】の“遊びのボランティア”

# 子どもも、自分も、いっしょに楽しむ

背中に白い文字で“volunteer”(ボランティア)と書かれた黄色のトレーナーを着ている人を【こどもの城】で見かけることがあります。【こどもの城】のボランティアのみなさんです。大学生から社会人、遊びに来る子どもたちのおばあさんやおじいさんにあたる年代の人まで、たくさんのボランティアがいろいろな活動をしています。

【こどもの城】のボランティアは、子どもたちが楽しく、むちゅうになって遊べるように、子どもたちによりそって活動しています。〈あそび〉をとおしてふれあうので、“遊びのボランティア”といえます。9月27・28日の2日間、活動に参加したボランティアのみなさんに“遊びのボランティア”について聞いてみました。

## 子どもの立場にたって考える

【こどもの城】のボランティアは、“ふれあいをとおして遊ぶ”ことが基本です。まず、どんなことを大切に活動しているのか聞いてみました。

多くのボランティアは、“子どもの目線・気持ち”を大切にしています。つまり、子どもの立場にたって、見たり考えたりすることを大切にしているということです。大人であるボランティアも子どもの気持ちになって、「子どもも自分もいっしょに楽しむこと」「ボランティアもいっしょに笑って楽しむ」ことを心がけているといえます。

「一人の人間として、尊重する」「子どもの自主性を尊重する」「子どもの世界にはいる」—子どもの気持ちを大切にしていることを別な言い方で伝えていきます。そして、「気軽に話しかけることで、参加しやすくする」「遊ぶだけでなく、コミュニケーションを楽しむ」「話をいっぱい聞く」というように、人と人との「ふれあい」にも気を配っています。



## “親しみやすい”お兄さん、お姉さん

このように接してくれているボランティアを、子どもたちはどのように見ているのだろうか? どう見られていると思うか聞いてみました。

ほとんどのボランティアが、「いっしょに遊んでくれるお兄さん、お姉さん」「近所のお兄さん、お姉さん」と答えています。身近にいる年上の人として、“親しみやすさ”を感じてもらっているようです。ボランティアも子どもに声をかけるし、子どもたちも気軽に声をかけてきます。

## “なかま”として、いっしょに遊べる“大人”

「親とはちがう大人」「お父さん、お母さん、学校の先生ともちがう大人」と思われているというボランティアもいます。ふだん子どもたちが知っている“大人”とはちがう大人—「少し年上の友だち」「友だちに近いものを感じてくれている」「あこがれの存在、あまえられる存在」というように、“なかま”として心をゆるすことができ、いっしょに遊べる“大人”だということです。

このような“大人”がそばにいと、子どもたちは安心しておもいっきり遊ぶことができます。遊びに集中することで、いろいろなものや発見したりすることもできます。「こんなこともできるんだ」「ふーっ、できたぞ! やったー!」「もう少し上のレベルにチャレンジしてみよう」—子どもたちは遊びのなかで、自信をつけ、成長していきます。

子どもたちが、おもいっきり遊べるようにお手伝いするのが“遊びのボランティア”です。あるときはなかまとしていっしょに遊び、あるときはお兄さん・お姉さんとしてやさしくみまもり、あるときは“ガキ大将”のようにみんなをひっぱり—子どもたちの気持ちを大切にしながら、いっしょに遊べる“大人”として、いろいろななかたちで子どもたちの遊びをさせます。

子どもたちの身近な存在で、気軽に話しかけることもできるし、信頼もおける“大人”といえます。“遊びのボランティア”がいるからこそ、子どもたちの遊びのプログラムもより楽しく、充実したものになります。【こどもの城】のような児童厚生施設では、かくことのできない存在です。



### 【こどもの城】のボランティア

【こどもの城】では、300人をこえるボランティアが登録して活動しています。【こどもの城】のさまざまな〈あそび〉の活動に加わり、子どもたちとスタッフの間に入って、楽しく遊べるように子どもたちをサポートしています。

ボランティアが中心となって行っているプログラムもあります。人形劇(女性・青年)、影絵、紙芝居、パネルシアター、絵本の読みかたりなどです。グループを作って、定期的集まって練習を重ねて公演を行っています。昔遊び、なわとびやドッジボールなどをみんなで遊んだり、ボランティアが考えた遊びをみんなで楽しんだり—子どもたちと遊びをとおしてふれあうグループもあります。

【こどもの城】で開催するボランティア講習会を修了した人に、登録してもらい、活動してもらっています。大学生以上(社会人を含む)を対象とした「ボランティア講習会」は、平成21年2月に開催を予定しています。

## 児童福祉施設給食用

# スキムミルク



おやつや料理にも最適

イラスト: ナシエ

独特の甘みがあるため、おやつ作りにも最適です。

## 成長に不可欠な栄養素が豊富

たんぱく質、カルシウム、ビタミンB2  
が多く含まれています。



## 子どもの成長に理想的な食材

スキムミルク(脱脂粉乳)は、牛乳から脂肪分(バター)を取り除いてつくりまします。スキムミルクの大きな特徴は、脂肪分が極めて少なく、低脂肪、低エネルギーであることから、飲用にも料理にも様々なお菓子づくりなどにも幅広く活用していただけます。さらに、良質なたんぱく質、カルシウム、ビタミンB2など成長や健康に欠かせない栄養素がたくさん含まれているのも特徴です。

スキムミルクは、動物性脂肪をほとんど含んでいないので、生活習慣病予防に役立つ健康食品としても高く評価されています。大人だけではなく子どもにも生活習慣病が増えている今こそ、低脂肪、低エネルギーのスキムミルクを上手に給食に取り入れ、子どもたちの健康づくりに役立ててください。

お申し込み  
お問い合わせ TEL 03-3591-3245

財団法人 児童育成協会 児童給食事業部

〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-21 FAX 03-3595-2216

ニュージーランドの良質な牛乳から作った「スキムミルク」を無税で輸入することにより、全国の児童福祉施設に低価格で提供しています。

